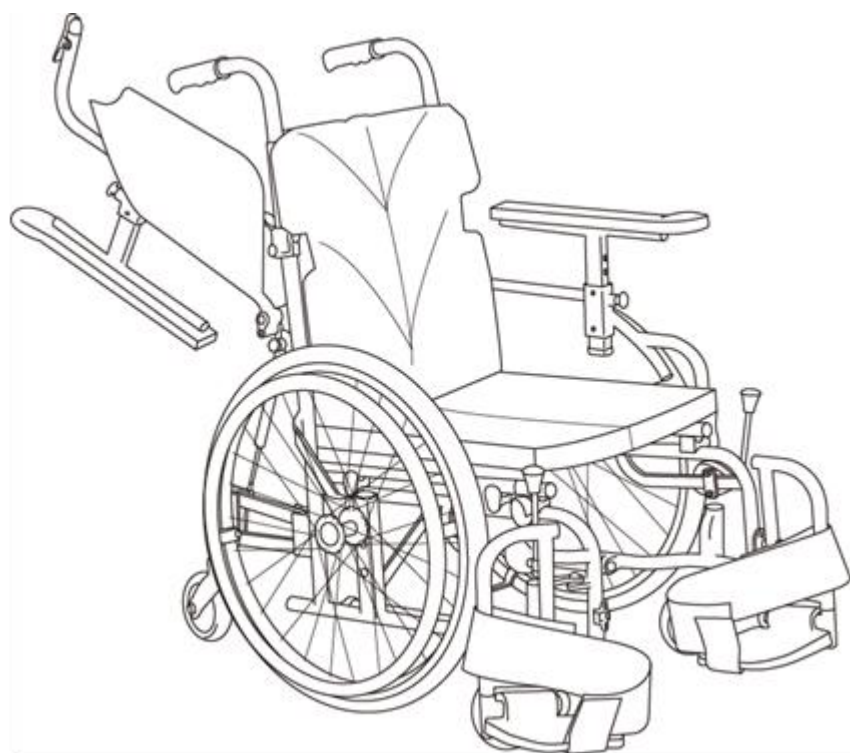




KY62055(00/07)

取扱説明書

低床こまわりくん（低床型六輪車いす）
KAK20(18・16)-40B-LO



● 目次 ●

製品の特徴・使用目的	1
安全に関するご注意	2
1. 同梱部品の確認	9
2. 安全ラベル	9
3. 各部名称	10
4. お使いになる前に	11
5. 車いすの広げ方・たたみ方	12
6. ブレーキの使用法	14
7. アームサポートの使用法	15
8. フット・レッグサポートの使用法	17
9. 背ベースシートの調整方法	19
10. 奥行き調整方法	19
11. 段差乗り越えの方法	20
12. ガススプリングの取扱い方法	21
13. お手入れの方法	22
14. 保管についてお願い	22
15. 車いすの保守・点検	23
16. 車いすの主な乗り方	25
17. 仕様	27
18. 保証規定	31

このたびはカワムラサイクルの車いすをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この取扱説明書は、製品を安全にご使用していただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。

取扱説明書は適宜更新しております。最新版を弊社ホームページからダウンロードしていただけます。
<https://www.kawamura-cycle.co.jp>

※ご使用になる前に本書を必ずお読みください。また、ご利用の際には必ず携帯していただき
必要なときにいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書は本書裏表紙に記載されていますので、お買い上げいただいた取扱店より記入をお受け下さい。

カワムラサイクル

[製品の特徴・使用目的]

本製品は、手動式車いすです。
これに搭乗しての移動と、休息を目的としています。
本製品は一人乗り用です。

■自走用をご使用の場合

この車いすは、自身でハンドリムを操作して走行する車いすです。この車いすは、特別な身体保持具、バックサポート（背）の角度調整、座位の姿勢変換（昇降、旋回等）等の機構がない標準形の自走用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。なお、購入時はこの標準形が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準形が使用に適さなくなることがあります。

■介助用をご使用の場合

この車いすは、介助者が操作する車いすです。この車いすは、バックサポート（背）の角度調整、座位の姿勢変換（昇降、旋回等）等の機構がない標準形の介助用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。なお、購入時はこの標準形が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準形が使用に適さなくなることがあります。

安全に関するご注意

※ご使用になる前に必ずお読みください。

安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

[標示マークの説明]

※正しい取扱いに関する必要事項を標示(シンボルマーク)で表しています。

 危険	取扱いを誤った場合、死亡、または重傷を負うことがあり、かつその切迫の度合いが高い危害の場合を示しています。
 警告	取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。
 注意	取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。
 禁止	してはいけないことを示しています。
 必ず守る	必ずしなければならないことを示しています。

危険

取扱いを誤った場合、死亡、または重傷を負うことがあり、かつその切迫の度合いが高い危害の場合を示しています。



必ず守る

- 移乗介助は転倒に注意し、利用者の身体状況に合わせて安全に行う。
ケガをするおそれがあります。

警告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。



禁止

- エスカレーターでは使用しないでください。
介助者がいる場合でも、転倒などにより重大な事故のおそれがあります。
- 勝手に改造・分解しないでください。
強度や耐久性が低下して危険です。また、事故になる恐れがありますので絶対に改造・分解しないでください。
故意にシートを切断する等の加工を絶対にしないでください。シートを破断したり、加工した状態で使用されますとフレームが歪んだり、破断する原因となります。また、シート取付ネジが歪んだり、欠落すると事故の原因となります。





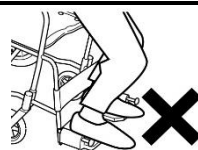
警告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。



- 車いすに乗り降りの際は、決してフットプレートの上に足を乗せないでください。

絶対にフットプレートの上に乗って車いすに乗り込んだり、降りられるときに立ち上がらないでください。車いすごと転倒し危険です。



- 車いすを火気に近付けないでください。

シート部が燃えたり、熱くなりプラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど、危険です。



- ポケットには1 kg 以上の重いものを入れないでください。

過度の荷物はバランスを崩し危険です。また、押手に荷物を吊り下げますとバランスを崩し危険です。絶対に避けてください。



- 座シート以外の部分に腰掛けないでください。

- 介助者は、絶対に車いすに乗って介助しないでください。

- 複数の人数で乗らないでください。

この車いすは一人用です。二人以上で乗ると破損・事故の原因になります。

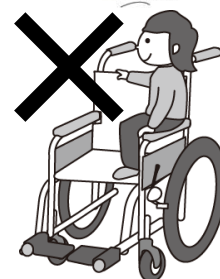
- 急な坂道(勾配4度以上)では使用しないでください。

- 押手に寄りかかったり、歩行補助として使用しないでください。

- 本説明書に記載されている調整箇所以外の調整を行わないでください。

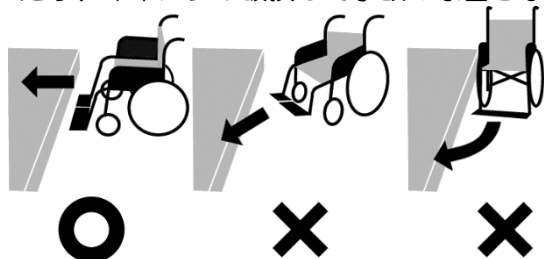
事故の原因となります。調整が必要な場合はご購入の取扱店にご相談ください。

- 大きな段差を無理に乗り越えようとししないでください。



- 発進するときや段差を乗り越えるときには、キャストのタイヤが真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。

斜めに進入したり、キャストタイヤが斜めになった状態で発進すると段差を乗り越えられなくなったり、キャストが破損して事故の原因となる恐れがあり大変危険です。

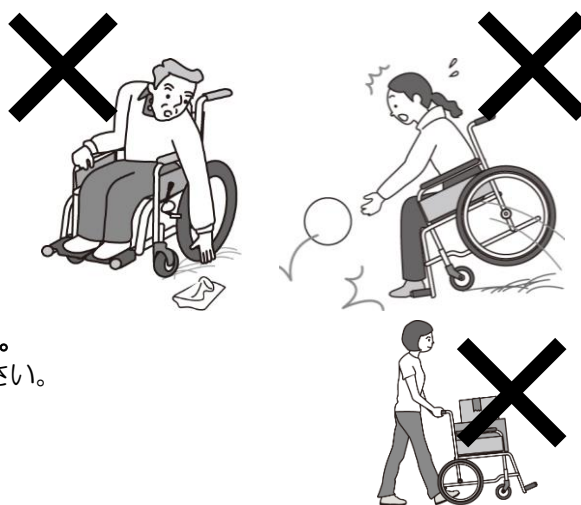


警告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

禁止

- 車いすでの走行中は、身体を乗り出さないでください。
車いすが不安定になり危険です。
- 車いすに座ったまま強い前傾姿勢をとらないでください。
車いすに座ったまま前方の地面に置いてある物を拾うと、車いすごと転倒し大変危険です。
- 車いす以外の目的に使用しないでください。
物品運搬・踏み台などに使用しないでください。
車いすの上に立ち上がらないでください。



必ず守る

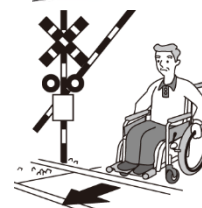
- 車いすを持ち上げる場合、駐車ブレーキをかけ固定されているパイプをしっかり支えてください。
※アームサポートを持たないでください。
※フット・レッグサポートを持たないでください。
※背シートを持たないでください。これらの箇所を持ち上げると、フット・レッグサポートやアームサポート等が車いすから外れるなど、大変危険です。



- 道路通行の際は、必ず右側通行してください。また、歩道を通行してください。
- 身体が前のめりにならないよう充分ご注意ください。
段差や凸凹などのある路面等を走行するときは、特にご注意ください。



- 踏み切りの横断やエレベーターの乗り降りの際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。
斜めの角度で進入するとレールの溝にはまって危険です。必ず介助者と一緒にわたってください。



- 坂道の上下りや段差のある場所では、必ず介助者に支えてもらって行ってください。
坂道を上るときは前向きで、下るときは後ろ向きで走行してください。
坂道を前向きで下ると乗っている人が前へずり落ちる、前へ倒れる、スピードが出やすいなど、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。

[上り坂]



[下り坂]





警告

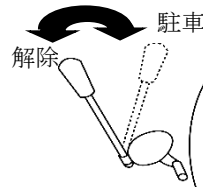
取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

●傾斜地・坂道での走行は特にご注意ください。

- ・傾斜地や坂道では、車いすが予想外の方向に進む、スピードが出やすいなど大変危険です。
- ・車いすからずり落ちる、前へ倒れるなど、非常に不安定になり危険です。



●車いすに乗り降りする際、一時停止する際は、必ず駐車用ブレーキをかけて車いすが固定されていることをご確認ください。



●走行中は、足を必ずフットプレートの上に乗せてください。

足を地面に付けたままで走行したり、フットプレートから外して走行すると、フットプレートと地面の間に足が巻き込まれてケガをする恐れがあり、危険です。
(足でこいで操作する場合は例外です。)

●車いすの機能と操作をよく理解し、慣れた状態で介助を行ってください。

●部品等が破損したり損傷がある場合は、すぐに部品を交換してください。

●次のような場所では走行を避けてください。

- ・交通量の多い道路 ・砂利道 ・凹凸のある道
- ・ぬかるみ ・雪道 ・凍結路 ・防止柵のない側溝や路肩付近など
- ・崖 ・川土手 ・海岸防波堤上 ・その他危険な場所

●次のような場合は走行を避けてください。

- ・夜間 ・雨天 ・濃霧 ・強風 ・その他危険が予想される場合
- 夜間は側溝や障害物などが発見しにくくなり危険です。
雨天は路面が滑りやすくなり危険です。

●次のような場所では厳重な注意が必要です。

- 介助者が付き添い、利用者の身体を支えるなど注意しながらご使用ください。
- ・狭い道 ・踏み切り ・横断歩道 ・駅のホーム ・エレベーター
- ・車いす対応の動く歩道 ・車いす対応の福祉車両
- ・その他危険が予想される場所



必ず守る

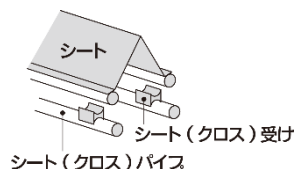


注意

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

●シートパイプがシート受けに収まっている事を確認してご使用ください。

万が一、シート受けから浮いた状態でご使用されますと、フレームが歪んだり、故障の原因となり事故につながる恐れがあります。



禁止



注意

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。



- 車いすを投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。
フレームが歪んだり、破損の原因となります。

- 跳ね上げ部、背折れ部、ブレーキなどの操作レバーに荷物などを掛けないでください。

- 背もたれを背折れしたまま使用しないでください。
後方へ転倒したり、背折れ金具で怪我をするなど大変危険です。

- 小さな子供に使用させたり遊ばせたりしないでください

- タイヤをもって車輪を操作しないでください。
駐車用ブレーキで指をはさむなど、大変危険です。

- 傘や荷物などを持って、片手で走行しないでください。
傘をさしながら、また片手に荷物を持ちながらの片手操作ではバランスを崩す原因にもなります。両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと走行してください。

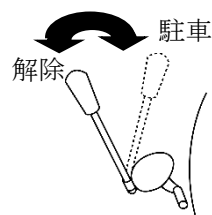
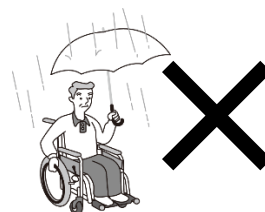
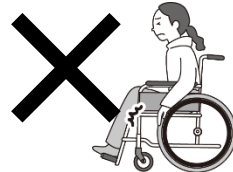
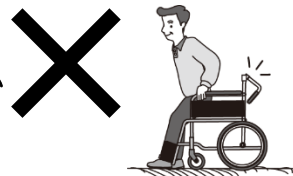
- 駐車用ブレーキのレバーは作動方向以外に力を加えないでください。
また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損する恐れがあります。

- 急発進、急停車、急な方向転換をしないでください。
- アームサポートに腕を載せたまま、アームサポートを跳ね上げないでください。

- 下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。

- | | |
|----------------------|-------------|
| ・車道に近いところ | ・人通りのあるところ |
| ・路面に段差や凸凹のあるところ | ・湿気の多いところ |
| ・海沿いの屋外(潮風の当たるところ) | ・雨、風のあたる場所 |
| ・ほこりの多い場所 | ・坂道 |
| ・非常口、消火器、消火栓の前 | ・暑い日や寒い日の戸外 |
| ・直射日光の当たる場所(車内も含む) | |
| ・ストーブなど火気を使用し高温になる場所 | |
| ・子供がいたずらをする恐れのある場所 | |
- 事故やサビ・破損の原因になります。

- 地球環境保護のため、廃棄するときはそのまま放置しないで各自治体の取り決めにしたがってください。





注意

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。



必ず守る

- ご使用前には各部を点検してください。
車いすは“動くもの”ですから、長時間のご使用等により劣化が生じます。
ご使用前の点検を励行し、異常が見つかったら直ちにご使用を中止してください。
- 安定した姿勢で座ってください。
座面深くに座ってください。左右にかたよらずに座ってください。
また、介助者は、ご利用者が安定した姿勢で座していることをご確認ください。
- 回転している車輪に指を挟み込まないように注意してください。
- 車いすにバリなどがないかをご確認ください。
衝突等により金属・樹脂部にバリなどが発生することがあります。ケガの原因となりますので、充分ご注意ください。
- 認知症の方がご使用される場合は、必ず介助者が付き添ってください。
車いすのシート、部品等を飲み込むことや一度かけた駐車用ブレーキを不意に解除されることがありますので、充分ご注意ください。
- 駐車用ブレーキは必ず手で操作してください。
足などで操作するとブレーキが破損する恐れがあります。
- 介助者は、利用者が車いすに安全に座れていることを確認してから操作してください。
利用者の身体の一部または衣服がタイヤ、スポーク、キャスト及び地面、建物、通行者に触れたりはさまったりしないようご注意ください。
- 靴を履かずに足をフットプレートに乗せてご使用いただく場合は充分ご注意ください。
壁や柱で足をケガしたり、足がフットプレートから落ちて骨折するなど、大変危険です。
- 車いすの乗り降りや移乗など車いすが不安定になりやすいときには、必ず2名以上の介助者が付き添ってください。
- ご利用者の心身の状況、症状を充分考慮し、適切な介助を行ってください。
- 本製品を他の方に譲渡・貸与する時は、必ず本書もあわせてお渡しください。



なお、本書は、仕様変更などによりイラストや内容が一部実車と異なる場合があります。
※以上の注意点以外であっても、無理な使用はおやめください。事故の原因になります。

ご確認ください

公共交通機関にご搭乗される場合

お客様の車いすをご旅行先へ持っていかれる場合は、事前に利用する公共交通機関又は旅行代理店にご相談ください。



事前確認なしに出発された場合、ご希望の便に間に合わなかったり、ご搭乗・ご乗車できない可能性があります。

特に六輪車、リクライニング車などガススプリング（ガスダンパー）を使用している車いすは飛行機への搭載可否の判断に日数を要する場合があります。また、電動車いすや電動ユニット装着車いす及び特殊車いすについてもご希望の便によっては貨物室のスペース確保が出来ない場合があります。はやめの手続きでスムーズなご旅行をお楽しみください。



1.同梱部品の確認

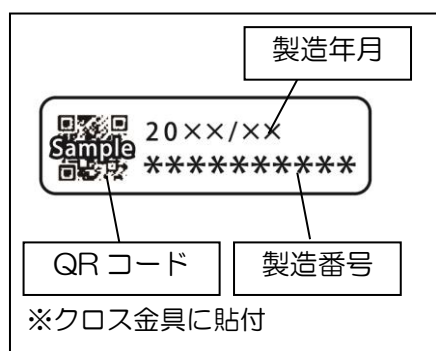
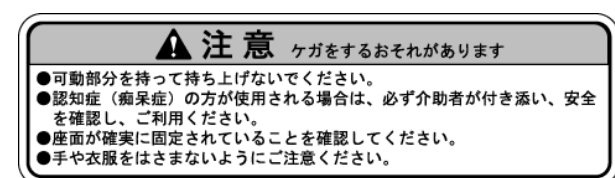
本製品には、以下の部品が同梱されていますのでご確認ください。

- ・ 取扱説明書 1 冊
- ・ 工具（スパナ） 1 個
- ・ 奥行き調整カラー 2 個
- ・ 背クッション 1 個
- ・ 座クッション 1 個

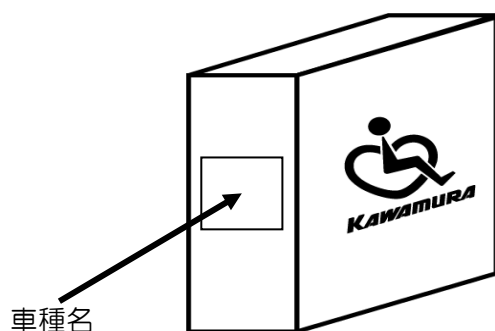
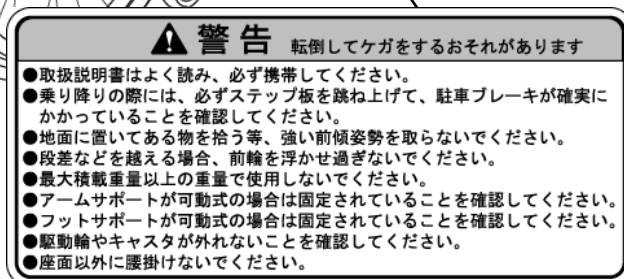
2.安全ラベル

- ・ 取扱い上の重要な事項を記載した安全ラベルが貼ってあります。
- ・ 安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
- ・ 安全ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。

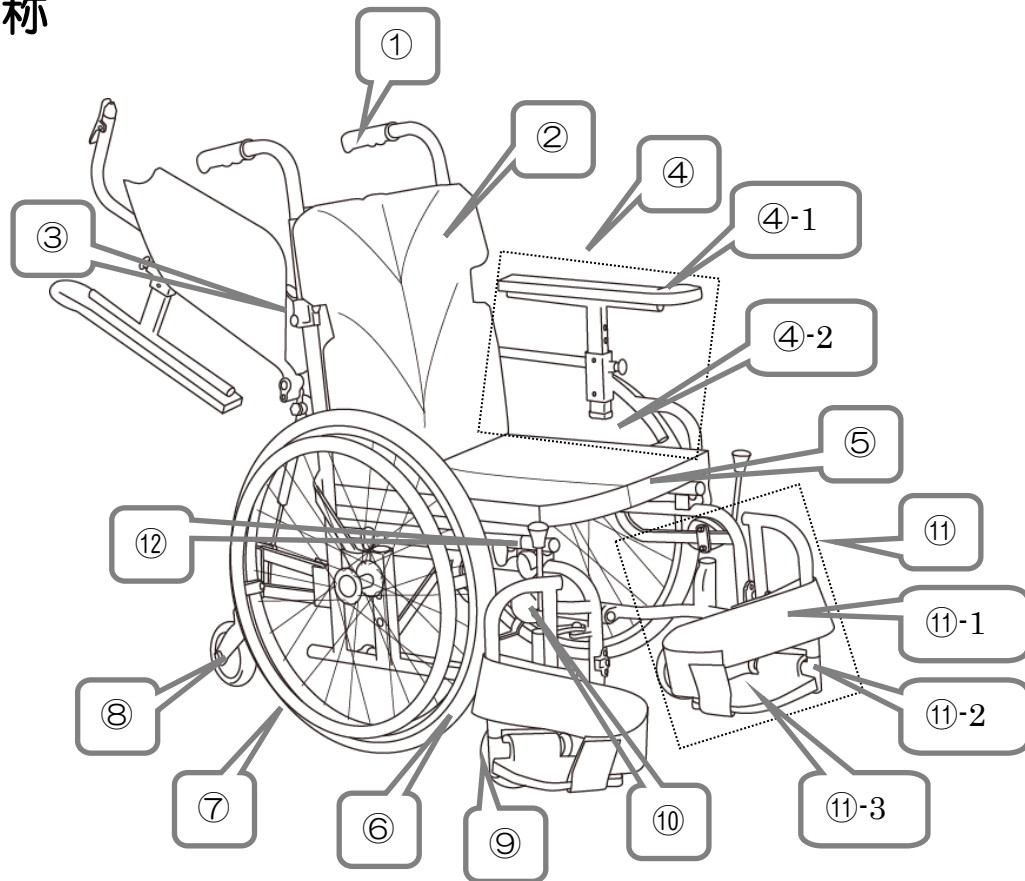
右側板（内側）



左側板（内側）



3.各部名称



①	押手（手押しハンドルグリップ）	介助者が車いすを操作するときに握ります。
②	背クッション（バックサポート）	使用者の身体を支える部品です。
③	背折れ金具	背もたれを折りたたむための部品です。
④	アームサポート	使用者の肘を支えます。
④-1	肘当て	使用者の肘をのせる部品です。
④-2	サイドガード	衣類等が車輪に巻き込まれるのを防ぎます。
⑤	座クッション（シート）	使用者が座る部品です。
⑥	中央車輪	駆動輪です。
⑦	ハンドリム	使用者が車いすを駆動するときに使います。（自走用のみ）
⑧	後輪	自在に方向転換できる小車輪です。転倒防止にもなります。
⑨	前輪	自在に方向転換できる小車輪です。
⑩	駐車用ブレーキ	使用者または介助者が車いすを駐停車するためのブレーキです。
⑪	フット・レッグサポート	使用者の足を支えます。
⑪-1	レッグサポート	使用者の足が後ろに落ちないように支えます。
⑪-2	フットサポート	フットプレートを支えます。
⑪-3	フットプレート	使用者の足をのせる部品です。
⑫	シートパイプ	シートの支えになるパイプです。

4.お使いになる前に

車いすを使用する前に、安全のため各部の点検を行ってください。

＜装着品の確認＞

- ・ 背ベースシート、座ベースシートは、しっかりと固定されていますか？
- ・ 背クッション、座クッションは、しっかりと取付けられていますか？
- ・ 背折れ金具は、しっかりと固定されていますか？
- ・ アームサポートは、しっかりと固定されていますか？
- ・ クロスは、しっかりと受けに収まっていますか？
- ・ フット・レッグサポートは、しっかりと取付けられていますか？
- ・ ヒールループは、しっかりと取付けられていますか？
- ・ フットプレートは、しっかりと取付けられていますか？

＜中央車輪の確認＞

- ・ タイヤにキズがありませんか？異物が刺さっていませんか？
- ・ タイヤの溝が充分残っていますか？変形していませんか？

＜ブレーキの確認＞

- ・ 駐車用ブレーキ（及び制動用ブレーキ）が正しく作動しますか？
- ・ ブレーキをかけた状態で中央車輪が回転しませんか？

＜アームサポート＞

- ・ スムーズに（上下・跳ね上げ）作動できますか？
- ・ しっかりと固定できますか？
- ・ キズや亀裂等はありませんか？

＜フット・レッグサポート＞

- ・ スムーズにスイングアウト、脱着できますか？
- ・ しっかりと固定できますか？
- ・ フットプレートがパタパタしていませんか？
- ・ キズや亀裂等はありませんか？

＜全体的に＞

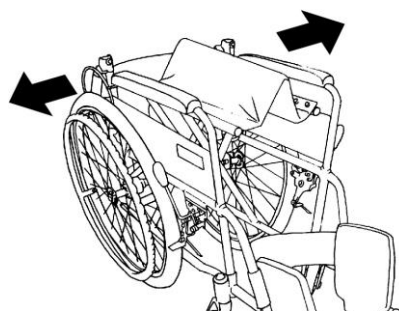
- ・ ガタつきはありませんか？
- ・ まっすぐに走りますか？
- ・ 各部ボルトやナットが緩んでいませんか？
- ・ 背折れ金具がしっかりと固定されていますか？
- ・ 背クッション、座クッションがしっかりと取り付けられていますか？

＜介助者へ＞

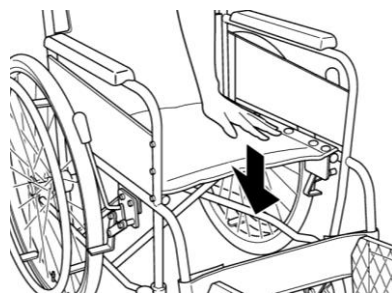
- ・ 長期間の使用や使用頻度によっては、ガスダンパーやキャスタ車輪、フット・レッグサポート、アームサポート等の劣化がすすむことがあります。使用前点検を励行してください。異常がある場合は、使用を中止してください。
- ・ 車いすに乗って介助しないでください。
- ・ 利用者の身体の一部（手や足）及び衣服が、タイヤに触れたり挟まったりしないよう注意してください。
- ・ 利用者の身体の一部（手や足）及び衣服が、建物、通行者及び地面に触れたり挟まったりしないように注意してください。
- ・ 車いすに重い荷物を載せたり、押手に提げたりしないでください。

5.車いすの広げ方・たたみ方

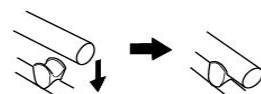
＜車いすの広げ方＞



- ①左右の駐車用ブレーキをかけ、車いすの後方に立ち、左右のアームサポートを持って両側に軽く広げます。



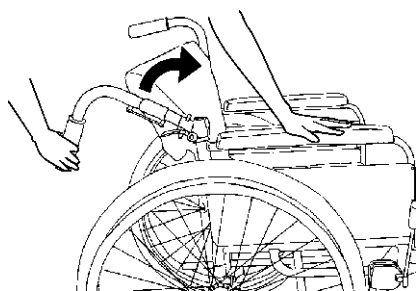
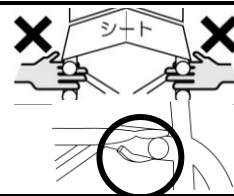
- ②片方のフレームを持ち上げて車輪を少し地面から浮かせ、座面端のパイプ部分を上から手で押し下げます。



前方からシートパイプをしっかり押さえ、シートパイプ受けにシートパイプがしっかり入るようにします。

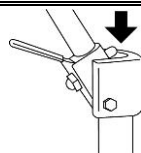
⚠ 注意

- シートパイプの横や下に手や指を置かないでください。挟まってケガをする恐れがあります。
- シートパイプをシート受けに確実に入れてください。フレームが変形して、事故の原因となります。



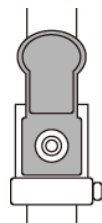
- ③車いすの押手部分を持ち、上方（矢印の方向）へ引き起こすように持ち上げてください。
※このとき、片側の手で車いすが動かないように支えてください。

⚠ 注意



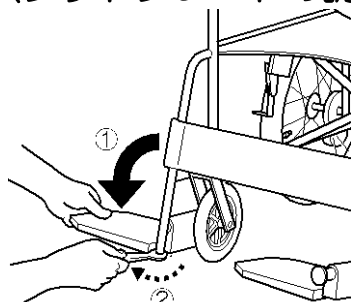
矢印の箇所に手や指を置かないでください。

挟まってケガをする恐れがあります。

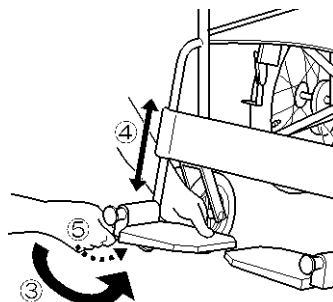


背折れレバーが図の向きになっていることを確認して操作してください。
回転したまま使用するとレバーが破損する恐れがあります。

＜フットプレートの調整＞

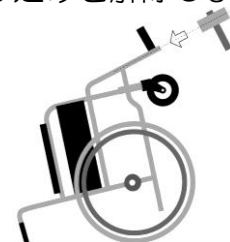


- ①左右の駐車用ブレーキをかけ、フットプレートを外側に倒します。
②付属品のスパナでステップポスト先端ボルトを少し緩めます。反時計回り（②矢印方向）で緩めます。



- ③内側へ回転させます。
④フットプレートの高さを調節します。
⑤しっかりと締め付けます。（7～8N・m）

フットプレートが固くて動かない場合は、下図のように車いすを倒し、ポストに垂直に木槌等で先端の六角ボルト頭を叩いてください。（パイプ内部のポストのかみ込みを解除します。）

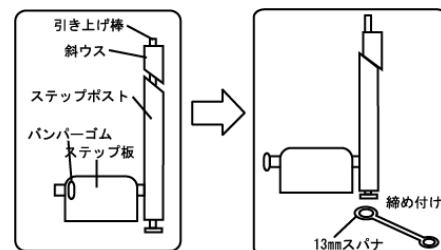


⚠ 警告



- ステップポストの高さは地面より 5 cm以上でご使用ください。低すぎると凸凹路面や障害物にフットプレートがあたり、転倒する恐れがあります。

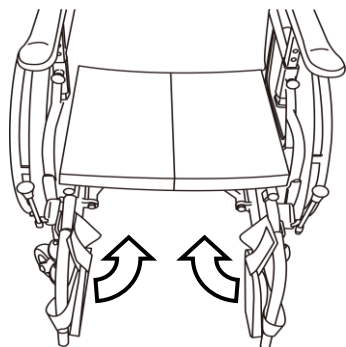
- ステップセット先端六角ボルト部分をスパナでしっかりと締め付けてください。締めることにより斜ウスがズレてステップセットが固定されます。締付が弱いとステップセットが外れる恐れがあります。しっかりと固定されている事を確認してご使用ください。



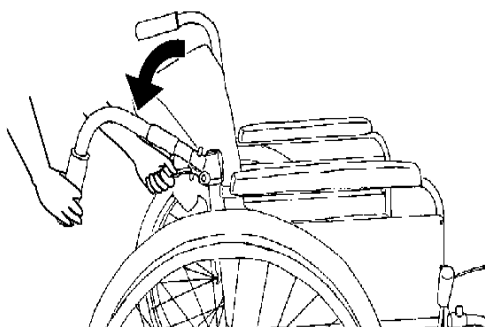
- 下図①のようにステップセットを固定してください。
- 車いすを折りたたむ時は下図①のようにフットプレートを跳ね上げてください。下図②、③のようにステップセットを取り付けると車いすを折りたたむときに干渉し正しく折りたためないため、フレームが歪み車いすに悪影響を及ぼす場合があります。あるいは前輪に干渉し、キャストが回転しにくくなる場合があります。



＜車いすのたたみ方＞

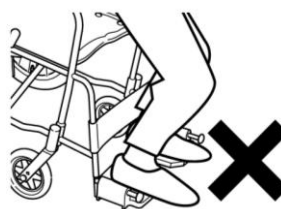


- ①左右の駐車用ブレーキをかけ、フットプレートを上方へ（矢印の方向へ）跳ね上げます。
※フットプレートを内側にたおした状態のままだと、折りたたみが出来ないので、フットプレートが上方へ上がっていることをご確認ください。



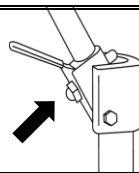
- ②押手を握り、一方の手で背折れ金具のレバーを後方へ引きながら押し手を倒します。

⚠ 警告

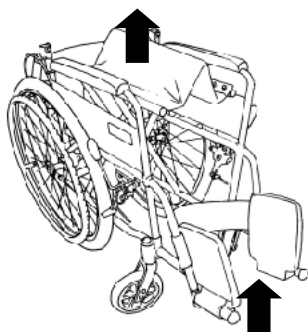


車いすから降りる際、絶対にフットプレートの上に乗らないで下さい。車いすごと転倒し、大変危険です。

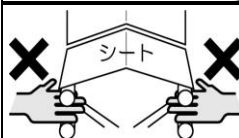
⚠ 注意



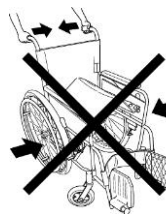
矢印の箇所に手や指を置かないでください。挟まってケガをする恐れがあります。



⚠ 注意



シートパイプの横や下に手や指を置かないでください。挟まってケガをする恐れがあります。



折りたたむ際に、押手を持って左右から押し縮めないで下さい。フレームの破損の原因となります。

③座シートの前方と後方の中央部を同時に持ち上げます。

6. ブレーキの使用法

駐車用ブレーキ

車いす乗降には、必ず駐車用ブレーキをかけて、車いすが固定されていることをご確認ください。



ブレーキレバーを後方に引くとロックし、レバーを真上にする解除されます。

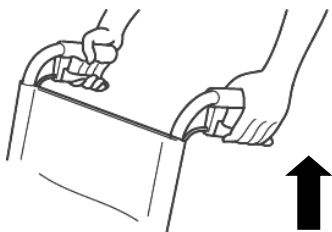
⚠ 警告

※一ヶ月に一度は安全点検を行ってください。

- ブレーキの利き具合が強すぎたり弱すぎたりする場合は、ご使用を中止し取扱店もしくは弊社にご相談ください。
- ブレーキは必ず手で操作してください。足などで操作するとブレーキが破損します。
- ブレーキレバーの作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損する恐れがあります。
- 坂道や傾斜地では駐車しないでください。駐車用ブレーキをかけても車いすが動く場合があります、大変危険です。(滑りやすい床面などでは駐車用ブレーキをかけても車いすが動く場合があります。)

介助ブレーキ

ブレーキレバーを握るとブレーキがかかり、離すと解除されます。



走行中や下り坂での制動用ブレーキとしてご使用ください。
ブレーキレバーは介助者が必ず両側同時にかけてください。

7.アームサポートの使用方法

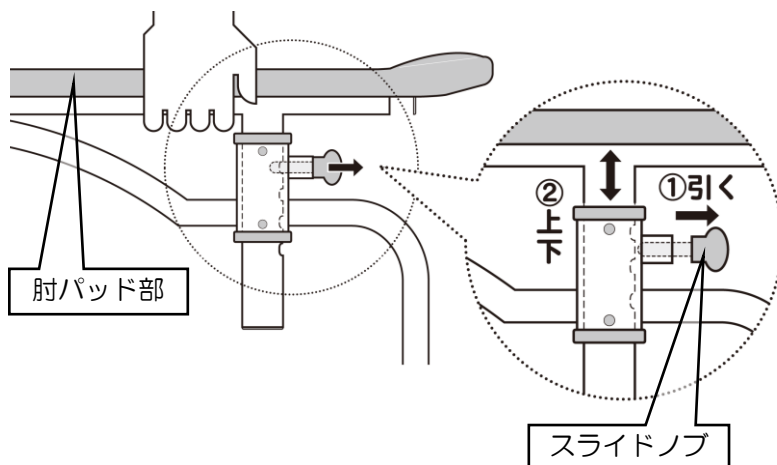
■高さを調節するとき

①左右の駐車用ブレーキをかけます。

②スライドノブを前方に引きます。

③スライドノブを引いたまま、肘パッド部を持って上下させます。

④お好みの高さでスライドノブから手を離します。
※アームサポートを上下に揺らし、固定されていることをご確認ください。



アームサポートの高さは 23、25、27、29cm の4段階で調節できます。

⚠ 警告

- 調節は必ず駐車用ブレーキをかけて行ってください。
調節操作中、車体が動く場合があります、危険です。

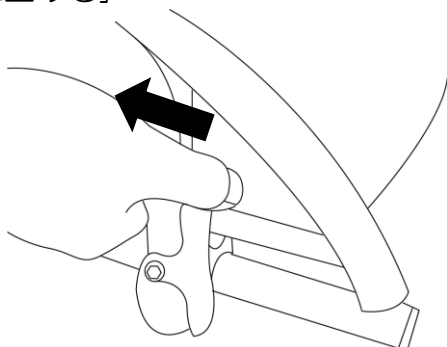
⚠ 注意

- アームサポートを下げる時、手や指、衣服等を挟まないように注意してください。

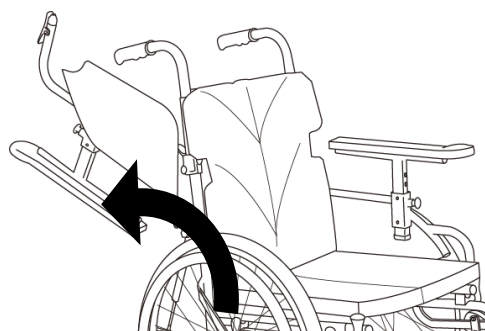
■跳ね上げるとき

アームサポートを跳ね上げるとベッドなどへ移乗しやすくなります。

[跳ね上げる]

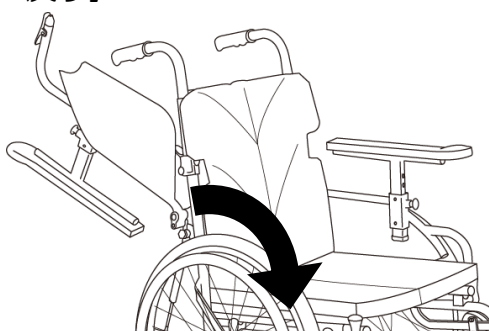


①左右の駐車用ブレーキをかけ、レバーを上図のようにつまみ、ロックを解除します。

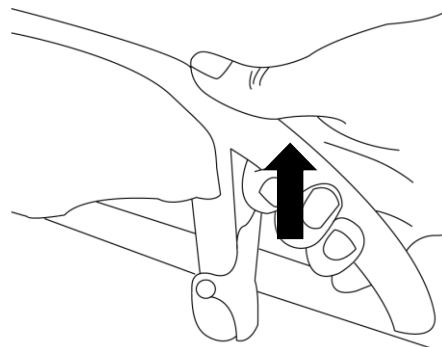


②アームサポートを矢印の方向に跳ね上げます。

[元に戻す]



①アームサポートを矢印の方向に降ろし、一番下まで押し下げます。



②一度上向きに引っ張り、確実にロックされていることをご確認ください。

⚠ 注意

●アームサポートを跳ね上げたり、戻す際には、フレームと隙間や車輪との隙間、ブレーキレバーとの隙間、跳ね上げ金具等で手や衣服を挟まないようにご注意ください。

- ・フレームとの隙間 ・介助ブレーキレバーとの隙間
- ・車輪との隙間 ・駐車用ブレーキとの隙間 ・跳ね上げ金具

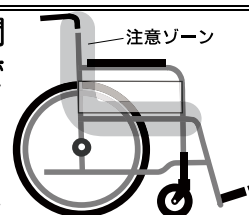
●アームサポートを跳ね上げたままの状態で使用しないでください。

転倒など、思わぬ事故の原因となります。

●背もたれを折りたたんだ状態で、跳ね上げ操作をしないでください。

背折れ金具を破損する恐れがあります。

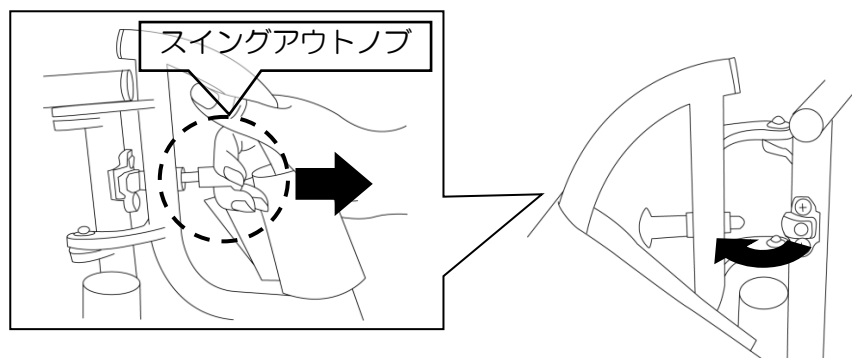
●アームサポートに腕を載せたまま、アームサポートを跳ね上げないでください。



8.フット・レッグサポートの使用方法

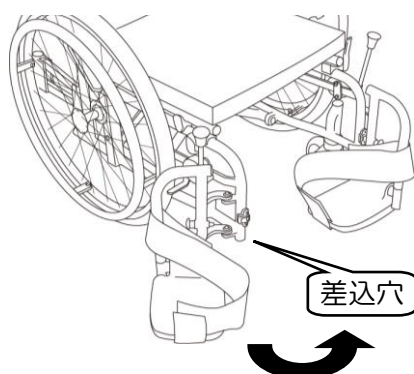
■スイングアウトするとき

[外に開く]

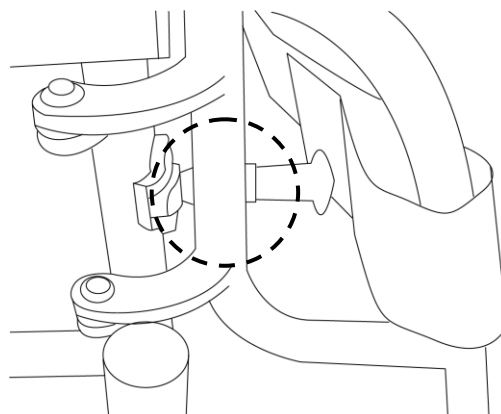


- ①左右の駐車用ブレーキをかけます。
- ②スイングアウトノブを引きながら、フット・レッグサポートを外側に廻します。

[元に戻す]



- ①左右の駐車用ブレーキをかけます。
- ②フット・レッグサポートを内側に廻します。



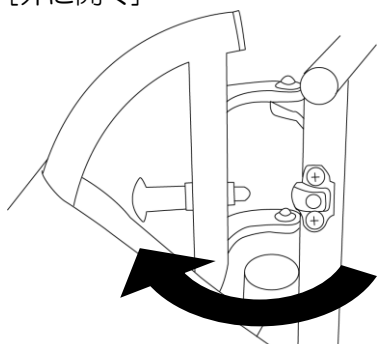
- ③スイングアウトノブが固定されていることをご確認ください。

⚠ 注意

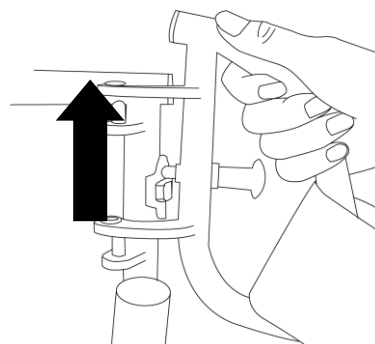
- フット・レッグサポートの操作をする際には、フット・レッグサポートや金具等で手や衣服をはさまないようにご注意ください。
- フット・レッグサポートの操作をする際には必ず駐車用ブレーキがかかっていることをご確認ください。
急に車いすが動き事故の原因になりかねません。
- 車いすに乗り降りの際は、決してフットプレートの上に乗らないでください。
車いすと転倒し大変危険です。
- 車いすの乗り降りや移動など車いすが不安定になりやすいときには、必ず2名以上の介助者が付き添ってください。

■脱着するとき

[外に開く]

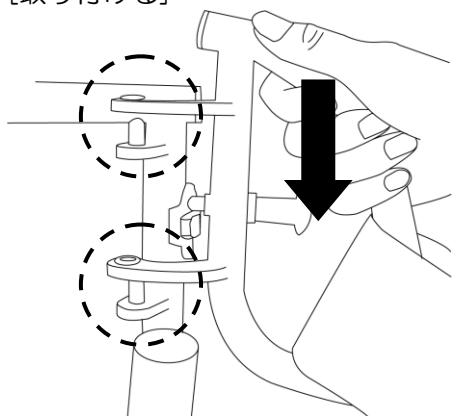


- ①左右の駐車用ブレーキをかけます。
- ②スイングアウトノブを引きながらフット・レッグサポートを外側に廻します。

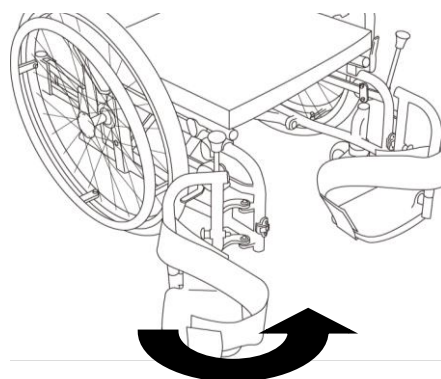


- ③ 外側に廻した状態でフット・レッグサポートを上引き抜きます。

[取り付ける]

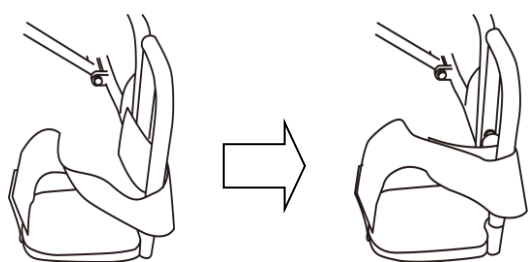


- ①左右の駐車用ブレーキをかけます。
- ② 外側に廻した状態でフット・レッグサポートを差し込みます。



- ③フット・レッグサポートを内側に廻します。
- ④このとき、スイングアウトノブが固定されていることをご確認ください。

ヒールループの張り調整方法



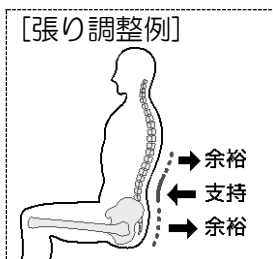
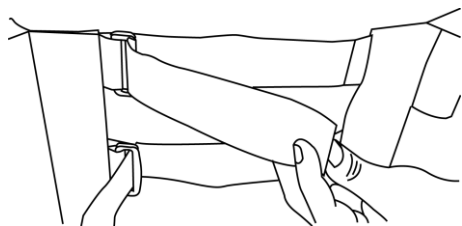
フット・レッグサポートに巻きつけてある部分の面ファスナーを外し、張り具合を調整し、再度しっかりとフット・レッグサポートに巻きつけて固定してください。

※この際、必ずしっかりと固定してください。

9.背ベースシートの調整方法

この車いすの背ベースシートは利用者の方の体型に合わせて調整できます。一番楽な姿勢が保持できるように調整してください。

- ①左右の駐車用ブレーキをかけ、背クッションを取り外します。



⚠ 注意

利用者が車いすに乗っている状態では、全ての面ファスナーを一度に外さないでください。

転倒する恐れがあり、大変危険です。

- ②調整ベルトの面ファスナーを外し、適当な長さに合わせます。
(部位によって張り具合を調整してください。)

- ③背クッションを取り付けます。

⚠ 注意

- ベースシートを調整する際、強く張りすぎないようにご注意ください。

※座ベースシートを強く張りすぎるとシートパイプ受けにシートパイプが収まらなくなる場合があります。

※背ベースシートを強く張りすぎると背パイプが中央に寄ってしまい、背もたれ幅が狭くなってしまいます。また、フレームの変形の原因にもなります。



- 背クッションはポケットが付いている方が後ろ側です。

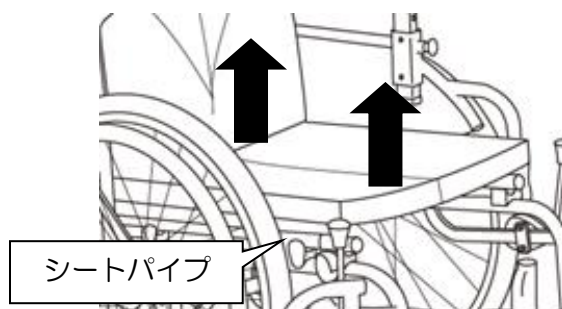
表裏・前後の向きにご確認ください。

- 面ファスナーに糸くず・汚れなどがついたときは取り除いてください。

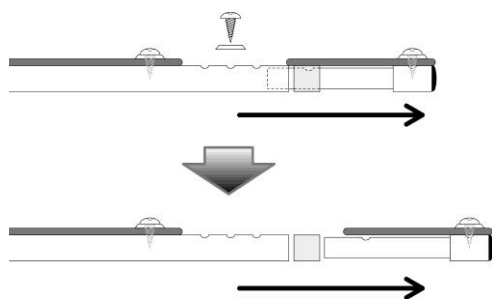
手入れをしないと接着力が弱まり、事故の原因となります。

10.奥行きの調整方法

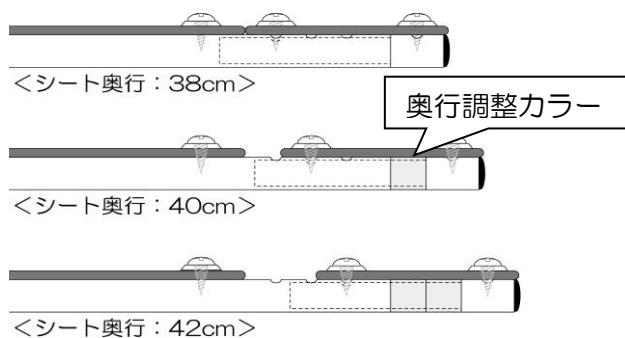
座面の奥行きを 38～42 cm の 3 段階で調整できます。



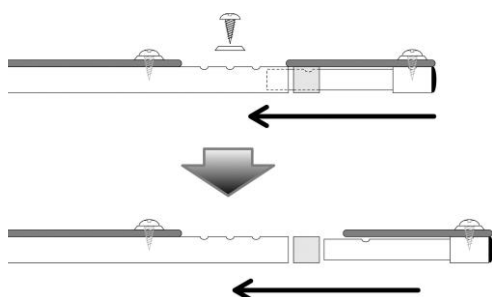
- ① 左右の駐車用ブレーキをかけ、座クッションを外します。
- ② 座ベース前シートを取り付けているねじの前方から2本目を緩めて外します。
(左右1箇所ずつ、合計2箇所)
- ③ 座ベース前シートの前方と後方の中央部を同時に引き上げ、クロス金具のシートパイプをシートパイプ受けからこぶし1個分浮かせます。



④ シートパイプの先端部を抜きます。



⑤ 奥行調整カラーの入れる個数で、シート奥行を調整します。
(38cm…無し 40cm…1 ケ 42cm…2 ケ)



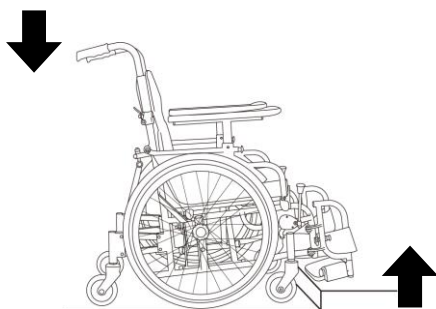
⑥ 抜取ったシートパイプの先端を、シートパイプ本体に戻し、穴位置を合わせ、ねじを締めて固定します。

⑦ 座クッションを元に戻します。

⚠ 注意

- ご使用の際は、必ずシートパイプが固定されていることをご確認ください。万が一、緩んでいると、思わぬ事故の原因となります。
- 奥行調整カラーは、紛失しないように保管してください。
シート奥行きは、左右同じ長さにしてください。左右の奥行きが違くと、フレームが歪み、破損やケガの原因になります。

11. 段差乗り越えの方法



⚠ 注意

段差や凹凸路面では乗越えの際、中央車輪が浮いてブレーキが全く利かない状態になる場合があります。大変危険ですので、充分ご注意ください。

段差の手前で、介助者が押手を押し下げて前輪を持ち上げます。
※六輪構造により、前輪の持ち上げが小さな力で簡単に行えます。

12. ガススプリングの取扱い方法

危険

●ガススプリングを分解しない。

※高圧ガスが封入されており、大ケガをするおそれがあります。

注意

●ガススプリングに衝撃を加えたり、傷つけることは絶対にしない。

●ガススプリングには作動方向以外からの力をかけない。

●ガススプリングには注油しない。

※油漏れ、作動不良、破損の原因になります。

13. お手入れの方法

■金属部分（フレーム、車輪等）

フレームなどの金属部は、乾いた布でよく汚れを落として、自動車用のワックスをかけ、乾いた布で拭き取ってください。スポークの通常のお手入れは、水を用いずに汚れを落とす程度で充分です。凹凸のある部分の汚れ、頑固にこびり着いた汚れは、市販の中性洗剤を用いてください。

■樹脂（プラスチック）部

樹脂部品には、市販の中性洗剤をご使用ください。

■シート類

シート部分をぬるま湯で拭き、きれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。市販されている防水加工用のスプレーなどを用いての防水加工をお勧めします。防水加工を行う場合は、ご使用になる防水加工用商品の説明書をよくお読みください。

<汚れがひどいとき>

●汚れがとれにくい場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後、水で濡らした布で洗剤を拭き取ってください。

●しみは、スポンジまたは柔らかいブラシを用いて取り除いてください。

●洗う場合は、ぬるま湯で手洗いしてください。洗濯機、乾燥機の使用はお避けください。

注意

●熱湯やオゾンで洗淨しないでください。

故障・変質・変色の原因となります。

●中性洗剤以外を使用しないでください。

中性洗剤以外を使用した場合変質・変色・傷みの原因となります。

●シンナーやベンジンなどの揮発性のものは使用しないでください。

変質・変色・傷みの原因となります。

●たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。

傷みの原因となります。

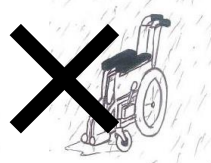
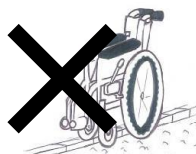
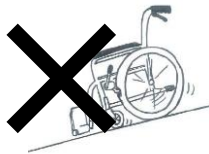
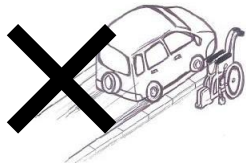
14.保管についてのお願い

車いすはお手入れの後、安全な場所に保管してください。

注意

●下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。

- 車道に近いところ
- 路面に段差や凸凹のあるところ
- 海沿いの屋外(潮風の当たるところ)
- 非常口、消火器、消火栓の前
- ストープなど火気を使用し高温になる場所
- 子供がいたずらをする恐れのある場所
- 人通りのあるところ
- 湿気の多いところ
- 雨、風のあたる場所
- 直射日光の当たる場所（車内も含む）
- 坂道
- 暑い日や寒い日の戸外
- ほこりの多い場所



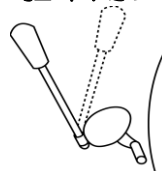
15.車いすの保守・点検

1 ヶ月に一度は安全点検を行ってください!!

■タイヤの溝は充分認識できますか？

タイヤの減りが激しいものはパンクの原因になったり走行性やブレーキの利きが悪くなるので交換が必要です。また、タイヤやキャストのひび割れにもご注意ください。

■駐車用ブレーキはしっかり利きますか？

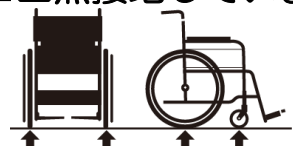


タイヤの空気圧が下がると駐車用ブレーキの利きが弱くなります。空気圧のチェックとともにブレーキの取付ネジの緩み、ブレーキ本体のガタなどがないかご確認ください。もし、異常がございましたら、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの取扱店までご連絡ください。

■変な音がしませんか？

変な音がする場合、どこでその音が発生しているかをご確認ください。ブレーキワイヤーが車輪に擦れている、ベアリング部の油分が不足しているなどの原因が考えられます。お買い上げの取扱店までご連絡ください。

■四点接地していますか？



前輪二輪と後輪二輪が接地しているかご確認ください。四点接地していない場合、フレームの歪みやネジの緩みが考えられます。直ちにお買い上げの取扱店までご連絡ください。

■まっすぐ進みますか？

平地で車いすを左右均等な力で押してください。自然に曲ってしまう場合、どこかが歪んでいる可能性があります。お買い上げの取扱店までご連絡ください。



■シートに破損やたるみ、傷みはありませんか？

湿気の影響を受けたり長時間続けてご使用になるとシートに破損・たるみが発生します。座り心地を損なわない姿勢が保ちにくくなりますので、たるみ・破損が著しい場合は交換をおすすめします。

■ネジの緩みはありませんか？

ガタがある場合は、ネジの緩みや脱落が考えられます。直ちにご使用を中止し、すぐにお買い上げの取扱店までご連絡ください。

異常が見つかったらご使用を中止してください。

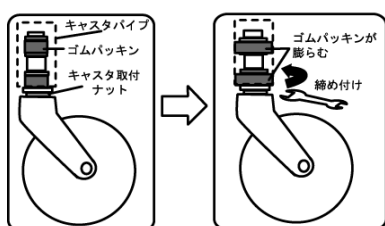
■きちんと折りたためますか？



折りたたみに異常がある場合、ネジの緩みや可動部分の油切れが考えられます。お買い上げの取扱店までご連絡ください。

■車輪やキャストはしっかり固定されていますか？

車輪を留めているボルト、キャストを留めているボルトは緩んでいませんか？緩んでいると使用中突然車輪やキャストが外れて転倒するなど大変危険です。お買い上げの取扱店までご連絡ください。



（出荷時には十分に締め付けてありますが、ご使用されている間に振動により緩む場合がありますので、定期的に点検してください。）スパナでキャスト取付ナットを締めると、ゴムパッキンが膨らみ、キャストが固定されます。キャスト取付ナットをしっかりと締めてください。締付が弱いとキャストが外れる恐れがあります。

■ハンドリムはしっかり固定されていますか？

ハンドリムにガタがある場合、取付ネジの緩みが考えられます。お買い上げの取扱店までご連絡ください。

■介助ブレーキはしっかり利きますか？

介助ブレーキがスムーズに作動すること、しっかりと利くことをご確認ください。異常がある場合は、お買い上げの取扱店までご連絡ください。

■ブレーキワイヤーは切れていませんか？

ブレーキワイヤーは切れていませんか？ブレーキが利かなかったり、事故の原因になります。安全のため、1年に一度はワイヤーを交換してください。

■洗浄の際には、水、お湯または中性洗剤をご使用ください。

- ・ 中性洗剤以外の洗剤を使用しないでください。
- ・ シンナーやベンジン・アルコールなどの揮発性のものは使用しないでください。
- ・ たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。
- ・ オゾン消毒はしないでください。ゴム材料の収縮などの原因になります。
変質・変色・傷み・割れの原因となります。

⚠ 注意

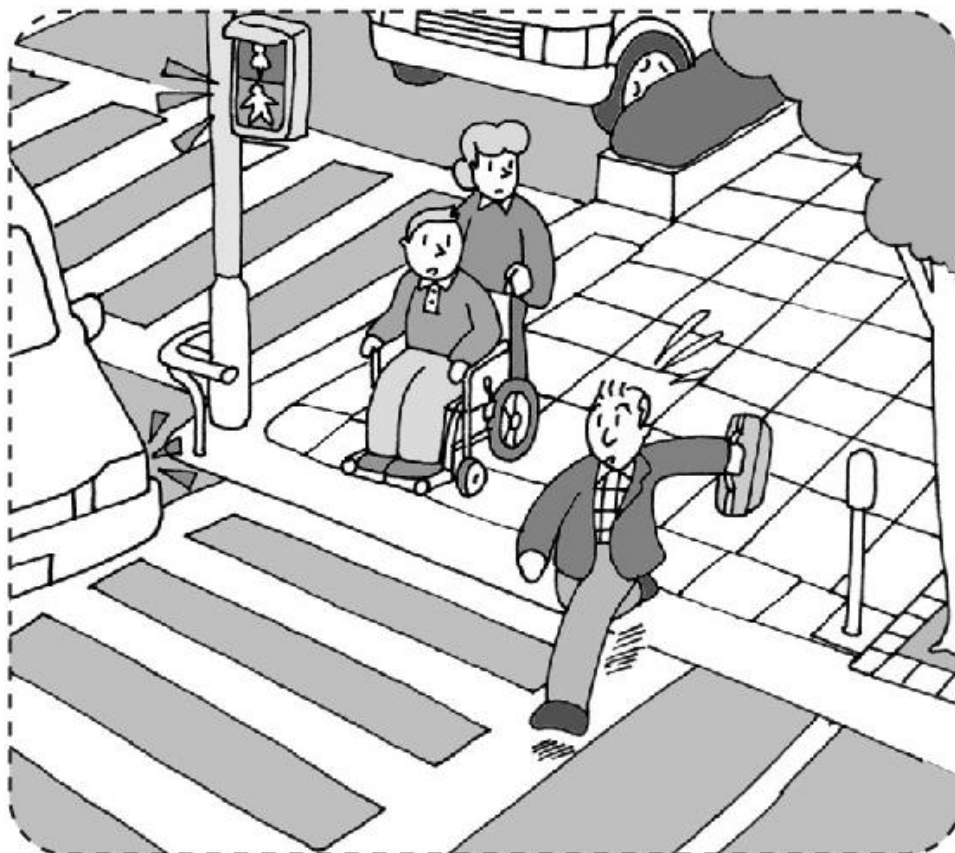
- スパナやドライバーなどの工具の使用にて締め付ける場合、薄手の手袋をご使用ください。
- 異常が見つかったら直ちにご使用を中止し、お買い上げ頂いた取扱店にご相談ください。
- 保証期間後であっても、修理によって製品の機能が維持できる場合は、ご希望により有償修理をさせていただきますので、お買い上げ頂いた取扱店にご相談ください。

16.車いすの主な乗り方

警告

- 下り坂は加速がつき危険です。いつでもブレーキがかけられるよう慎重に。
- いきなり公道に出るのは危険です。屋内や庭など安全な場所で練習しましょう。
- 車道はできるだけ通らず、歩道や十分な幅のある路側帯を通りましょう。

車いすは歩行者として取り扱われます。
歩行者としての交通ルールを守りましょう。



- 「自転車及び歩行者専用」、「歩行者専用」のマークのある歩行者専用道路も通ることができます。
- 信号機のある場所では、「青」が点滅中に横断するのは危険です。「青」信号を待ちましょう。

焦らずゆとりを持った横断、走行を心掛けましょう。

注意

- 車いすは、乗り物ですから、定期点検が必要です。
長期の使用によって劣化が生じます。異常が発生した場合は、直ちに使用を中止してください。

■ 移乗

車いすに乗る方を介助者がベッドなどから移す方法です。双方にとって安全で負担の少ないことが重要です。



介助者が片足を相手の膝の間に差し込んで、腰を支えながら立ち上がらせます。



介助者の膝で相手を支えながら、車いすの方へお尻を向けます。



ゆっくりと腰を下ろしてもらいます。

※「いち、にのさん」と声をかけながらおたがいに協力しましょう。

■ 外出

[坂道]



<上り坂>

押す人は身体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します。



<下り坂>

坂を下るときはブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。

17.仕様

(in：インチ)

品名・名称	標準仕様・規格		
	KAK20-40B-LO	KAK18-40B-LO	KAK16-40B-LO
座幅 (cm)	40 (肘パイプ内寸法)		
前座高 (cm)	36		
シート奥行 (cm)	38・40・42		
後座高 (cm)	33.5		
背もたれ高 (cm)	44		
アームサポート高 (cm)	23・25・27・29		
レッグ長さ (cm)	29～		
全高 (折りたたみ時) (cm)	88		
	66		
全長 (折りたたみ時) (cm)	91		
	71		
全幅 (折りたたみ時) (cm)	61.5	61.5	56
	35	35	31
重量 (kg)	18.0	17.7	16.8
フレーム	アルミフレーム 折りたたみ式 背折れ有り		
後輪 (駆動輪及び主輪)	20in ハイボリマーノント式車輪 ハンドリム波型・黒	18in ハイボリマーノント式車輪 ハンドリム波型・黒	16in ハイボリマーノント式車輪
ハンドリム	20in 波型 黒色	18in 波型 黒色	-
キャスト	4in ニューソフトキャストパッキン式		
キャスト車輪	4in ニューソフトキャスト車輪		
ヨーク	4in 樹脂ヨーク パッキン式		
背シート	背ベースシート:適合調整シート (黒) 背クッション:着脱式 (3色選択)		
座シート	座ベースシート:奥行き調整シート (黒) 座クッション:3cm厚 (3色選択) 単層 標準式		
アームサポート	跳ね上げ式・高さ調整式 (4段階)		
肘当て	エッグパッド		
ハンドグリップ	7.ネジ止め式 黒色		
フット・レッグサポート	スイングアウト式(脱着可) ヒールループ付		
ステップセット	O-2. 黒色		
フットプレート	o. 黒色		
ステップポスト	φ16mm 標準式		
バンパーゴム	d.用 黒色		
駐車用ブレーキ	ミニエッグブレーキ(ショート)		
にぎり	ニギリ S 黒色		
ガススプリング	高圧ガス噴入式/反発力 5kg/ストローク 50mm		

※記載の寸法は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。

*この車いすの後車輪のハブ軸は 1/2 -20UNF のねじを使用しております。

また、シート・バックサポート部、フットサポート部、背折れ金具部、介助ブレーキのバンドカバー部には十字穴付きタッピンネジを使用しております。

メ モ

メ モ

カワムラサイクル

■本社	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2800
■東京サービスセンター	〒110-0013	東京都台東区入谷 1-8-3	TEL03-3874-3511
■名古屋サービスセンター	〒487-0027	愛知県春日井市松本町1-3-11	TEL0568-52-4800
■本店サービスセンター	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2800
■福岡サービスセンター	〒819-0055	福岡県福岡市西区生の松原 1-18-3	TEL092-882-4722
■神戸工場 ■神戸第二工場 ■いなみの工場			

本書に記載の意匠、仕様および部品は性能向上の為に一部予告なく変更することがあります。
修理・お手入れ・お取扱いなどのご相談は、まずお買い上げ頂いた取扱店へお申し付けください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、製品名・車種をご確認のうえ上記までご相談ください。

保証規定

弊社の定める保証とは、保証期間内に正常な使用状態において故障が生じた場合に限り、無償にて修理を行うことをお約束するものです。

1. 本書、本体貼付ラベル等の注意書きに従った正常な使用状態で、お買い上げ日より 1 年以内に故障した場合は無償修理または交換いたします。（下記記載の消耗部品は含みません。）
 2. 無償保証期間内に故障して修理を受ける場合は、お買い上げ頂いた取扱店へご連絡ください。
 3. 無償保証期間内でも次の場合には保証適用除外となります。
 - イ) ご使用による消耗および取扱不注意による破損
例) タイヤの磨耗およびパンク、ワイヤー、シート、フットプレートの破損等
 - ロ) 地震、台風、水害などの天災および事故、火災による焼失・破損
 - ハ) お取扱の不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損
 - ニ) 保全上の不備および弊社以外で行った修理や改造等による破損
 - ホ) 弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損
 - ヘ) 一般に車いすが走行しない場所、または特殊な状態での使用による破損
 - ト) 製品本来の使用目的にそぐわない使用による故障および破損
 - チ) 日本国外でご使用の場合
 - リ) 保証書の提示がない場合
- 消耗部品
- | | | |
|---------------|-------------|-------|
| ・キャスト | ・シート類 | ・ワイヤー |
| ・フットプレート（板バネ） | ・バンドブレーキカバー | ・肘当て |
| ・車輪 | ・ガススプリング | |
4. 保証書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。
 5. 補修用性能部品は、製造打ち切り後 5 年保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
 6. 保証書にご記入頂いた個人情報、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検の為に記載内容を利用させて頂く場合がございますので、ご了承ください。

保証書

製品名 低床こまわりくん

品番

お客様名

ご住所 〒

TEL () -

取扱店名

住所 〒

TEL () -

お買い上げ年月日 年 月 日

（保証期間上記より 1 年間）

製造販売元 株式会社カワムラサイクル

〒651-2411 兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1 TEL078-969-2800

一度使用された製品は、原則としてお取り替えできません。
お問い合わせは、お買い上げいただいた取扱店へお申し付けください。